



新聞に掲載する広告の営業やイベントの企画

新聞社の広告営業・企画担当

職場ではこんな人も働いています

- 記者 ● 印刷 ● 販売 ● 総務 ● 経理 ● 事業
- システム・グラフィック ● デジタルメディア

- この仕事のキーワード

 - 記者
 - 編集
 - 独自ダネ
 - 地域づくり
 - 知的好奇心
 - 復興・創生
- こんな人に向いています

 - ニュースや世の中のことに関心がある
 - 文章を書いたり写真を撮ったりすることが好き
 - いろいろな事を面白がって知ろうと思える



紙面やイベントを通して県内外に福島の実状を伝えていきたい

福島県内最大の発行部数を誇る新聞社「福島民報社」。私は広告局企画推進部に所属しています。広告局は新聞社の中でも自社機能を最大限に生かして収益を生み出す部局。企画推進部は特に、県や市町村に事業やイベントを提案したり、新たな広告企画を作ったりするのが主な仕事です。お客様の目線に合わせて、答えを出していくことが求められるので、「聞く力」が大切。仕事のバリエーションが広く、新しいことにチャレンジできるのが面白いところです。

check!
私がこの仕事に就いたきっかけ

震災を経験したことから、福島県を情報発信で元気にする仕事がしたいと考えていました。新聞社という新聞を作るだけが仕事かと思っていたのですが、イベントなどを通して「地域づくり」にも貢献できると知り、新聞社の可能性に興味を持ちました。

入社5年目 藤沢さん

新聞社の広告営業・企画担当の仕事内容

商材提案

紙で発行する新聞を基本にしながら、デジタル分野にも広告の範囲を拡大。新聞の良さにプラスして、SNSやウェブとの連携も営業ツールの一つとしています。



企画書作成

新しい企画広告や、県や市町村に提案したい時などに企画書を作成。数値、人脈など新聞社ならではの情報の蓄積を生かして、説得力のある企画書を作ります。



打ち合わせ

イベントの場合、担当者とイベントの内容や、集客方法などを話し合います。事前準備をしっかりと行い、適切な提案につなげることを心掛けています。



イベント

事業部の人と協力して、開催日時の設定や会場、タイムテーブルなどを決め、設営から当日の運営まで実施。来場したお客様の笑顔を見るとうれしくなります。



必要な資格・スキル

- 普通自動車第一種免許
- ※特に資格などは必要ありませんが、自分の興味を広げていける人は楽しんで業務に取り組めるのではないかと思います。新たな人との出会いや、知らなかったことの深掘りを楽しめるかどうか重要です。

株式会社福島民報社

福島市太田町13-17 TEL/024-531-4111

創業/1892年8月 従業員数/約300名

支社/郡山本社、11支社(うち県外3支社)、15支局

福島民報社



HP

会社見学 OK

職場体験 OK

出張授業 OK



株式会社福島民報社ではこんな仕事をしています

「福島民報オンライン新聞」

福島民報は1892年に創刊。以来、県民紙として親しまれながら、福島県民とともに歩んできました。県下一の発行部数を誇り、県民の方々に最も親しまれ、読んでいただいている新聞です。「紙媒体」だけでなく、デジタル分野の取り組みも加速させています。紙面をスマートフォンやタブレット、パソコンで見ることができるサービス「福島民報オンライン新聞」のほか、過去の記事や紙面を検索できる公開データベース(DB)「福島民報データベース」も開始しました。オンライン新聞と公開DBというサービスを武器に、「新たな読者層」と「新たなお客様」の獲得に力を入れています。デジタルメディア局には、事業グループ、企画グループという部署があり、多くの人が働いています。



「ふくしま駅伝」や「風とロック芋煮会」を開催

様々な分野で大会やイベントを企画・開催しています。「ふくしま駅伝」や軟式野球大会などのほか、「風とロック芋煮会」は本県の代表的な音楽イベントとして定着しました。



出版物の企画・編集

県内の現状や人物などを紹介する出版物の企画・編集、自費出版のお手伝いもしています。地域の消防、火災予防に努める優良消防団には毎年「民報金ばれん」を贈っています。

県内のSDGs活動のけん引役として、プロジェクトやイベントなどを展開しています

SDGsの実現に向け、県内の団体や大学、企業などと連携し、「ふくしまSDGsプロジェクト」を運営しています。2022年には「ふくしまSDGs博」を開催。内閣府が主催する「2022年度地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の優良事例として表彰されました。イベントは「ふくしまSDGs未来博」と名称を変え、毎年開催しています。

